

佐澤太郎譯述
小學理科讀本卷之一

T1A3
40E88
(SA99)



佐澤太郎譯述

修正

小學理科讀本卷之一

明治二十一年七月六日

東京

文部省檢定濟

文榮堂藏版

小學理科讀本

例言

一本書ハ、高等小學理科ノ用ニ供セシガ爲メニ、
 サフレール氏著巴里刊行ノ「エレマン、ウヂュエー
 ル、デ、シアンズ、フキジク、エ、カチレール」ヲ譯述シ、
 中ニ就キテ、植物、動物、人體及ビ礦物ノ條ハ、專
 ラ中等科用書ニ據リ、物理ノ條ハ、主ニ其高
 等科用書ニ據リ、而シテ、事實ノ足ラザル所ハ、
 初等科用書等ヨリ補譯スルモノアリ、
 一原書ハ、初等科、中等科、高等科トモ、各ニ部ニ分

チ、其一ハ、教師ノ參考用ニシテ、事實ヲ委シク
陳述シ、一ハ、教科書ニシテ、其大略ヲ説キタル
ヲ、今ハ、合シテ一書トシタレバ、某處ニ於キテ
ハ、參考書ニ據リテ詳説シ、或處ニ在リテハ、教
科書ニ效ヒテ、畧説セリ、其詳説セシハ、教師ニ
講説ノ例ヲ示シ、畧説スルモノハ、講説ノ餘地
ヲ存スルノ微意ナリ、

一本書ニ載スル者ハ、卷ノ一上冊第一章植物ノ
部ハ、三界、植物、營養器、生殖器、植物類別、食用植
物、穀物、野菜、果實、牧草、工業用植物、庭園植物、藥

用植物、有毒植物、下冊第二章動物ノ部ハ、動物
類別、最下等動物、多肢動物、軟體動物、多節動物、
無血蟲、體形變遷、脊骨動物、魚類、蛙族、爬行類、鳥
類、卷ノ二上冊、卷ノ一下冊ノ續キ、哺乳類、外國
動物、第三章人體ノ部ハ、外貌、骨路、運動、呼吸、血
液循環、飲食消化、神經、五感、下冊第四章礦物ノ
部ハ、三態、空氣、水、燃燒、有用金屬、石類ニシテ、水
蒸氣、雲、露、霜、雪、霰、氷、風、雨、虹、火山、地震、潮汐、噴水、
鑄等ハ、此章中ニ畧説シ、卷ノ三上冊第五章物
理ノ部ハ、重力、天秤、槓杆、滑車、晴雨計、唧筒、光
附眼

鏡及太陽諸星方位時刻時計月及七附蝕附濕熱附
比色 暖計并 下冊ハ上冊ノ續キ蒸氣附汽船附車音響
響 電氣火花附雷器避電柱磁石附電鈴機電話機信ナリ
 一動物ノ中我ガ國ノ産ニアラズシテ邦人ノ其
 名ヲ聞キ知リ又ハ時々目撃スルモノハ別ニ
 外國動物ノ條ヲ設ケテコレヲ掲ゲタルナリ
 一尺度里數其外務メテ本邦ノ事物ニ譯シタレ
 ドモ止ムコトヲ得ザルニ至リテハ時ニ原文
 ヲ直譯シタルモ亦コレアリ
 一行文ハ務メテ談話體ニセントシタレバ或ハ

俗語ヲ用ヒタル所アリコレ其解シ易カフシ
 メントスルニ在リ
 一書中眞平トアルハマタヒラ眞中ハマトカ眞
 黒ハマク口眞直ハマスグト讀マシムベキ意
 ニシテ其他コレニ類スルモノ多シ但シ間亦
 専門科ノ譯字ヲ用ヒタルハ萬止ムコトヲ得
 ザルニ出ヅ
 一物名ノ通俗文字ニアラザルモノハ假名ヲ本
 文トシテ漢名ヲ分註ニスコレモ亦讀ミ易キ
 ヲ旨トスルニ在リ

一讀易キヲ以テ皆トシタレバ務メテ送り假
 名ヲ多クセリ苟モ蓋シ假リニ爲メニ如シ
 又殊ニ假名ヲ省キタルモノアリ繫ギタリ縛
 リタリ在リテ有リテトスベキヲ繫タリ縛タ
 リ在テ有テト書シタルノ類コレナリ
 一每卷ヲ上下二冊ニ分チシハ購求者ニ便セシ
 ガ爲メニシテ別ニ意味アルニアラザルナリ

明治二十年五月

譯者識

小學理科讀本卷之一上冊目次

| | | |
|-----|------------|-----|
| 第一章 | 植物 | |
| 第一 | 三界ノ話 | 一丁 |
| 第二 | 植物營養器生殖器ノ話 | 三丁 |
| 第三 | 植物類別ノ話 | 七丁 |
| 第四 | 食用植物ノ話 | 十丁 |
| 第五 | 穀物ノ話 | 十二丁 |
| 第六 | 野菜ノ話 | 十六丁 |
| 第七 | 果實ノ話 | 十八丁 |
| 第八 | 牧草ノ話 | 二十丁 |

| | | |
|-----|---------|-----|
| 第九 | 工業用植物ノ話 | 三十三 |
| 第十 | 庭園植物ノ話 | 三十一 |
| 第十一 | 藥用植物ノ話 | 三十三 |
| 第十二 | 有毒植物ノ話 | 三十七 |

小學理科讀本卷之一上冊目次終

小學理科讀本卷之一上

佐澤太郎編纂

第一章 植物
第一 三界ノ話

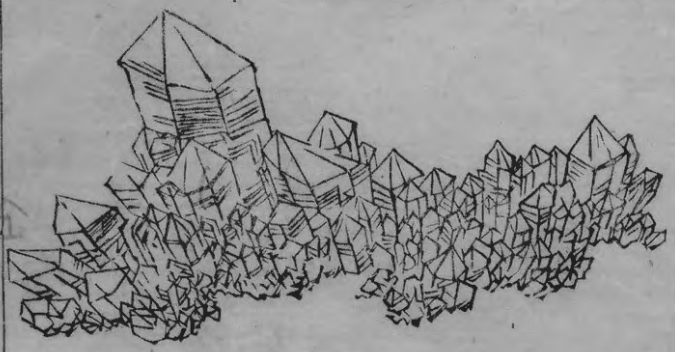
石鳥盆栽ノ樹木ヲ、一室ニ納レテ、戸ヲ閉ヂ、一年許ノ後ニ、開テ之ヲ見レバ、石ハ前ノ姿ト些モ變ラネド、木ハ枯レ、鳥ハ死テ、硬ク乾テ見ル影ナシ、鳥ハ一年ノ間、食ハズ、飲マズ、木ハ一年ノ間、水ヲ得ズ、其枯レ死ルモ、固ヨリ理ナリ、○動物、植物ハ

鳥樹木ト
石トノ別
ヲ問フ

飲食ヲ要シ、石ハコレヲ要セス、彼レニハ命有テ、
コレニハ命ナシ、命ナキモ
ノハ、礦物ナリ、
植物ヲ見ルニ、種子ヨリ芽
ヲ萌シテ、二葉ニ分レ、漸ク
成長シテ、幹、根、枝、葉ヲ具ヘ、
又花咲キ、果ヲ結テ後ニ枯
ル、畑ノ茄子ナドヲ見テ、知
ルベシ、植物ハ、空氣及ビ土
中ヨリ食物ヲ取り、コレヲ



植物ハ如
何



レモ皆全ジコトニテ、皮、肉、脈管、杯ノ如クニ、面倒
ナルモノナク、此モ機關様ノ所ナク、唯死物ノ相

變化シテ、全體ヲ養フ、偕コソ花モ
咲キ、果實ヲモ結ブナレ、斯ク食物
ヲ變化スルニハ、夫々ノ器械有テ、
又夫々ノ役目アリ、根ハ土中ヨリ
水液ヲ吸ヒ揚ゲ、葉ハ、空氣ヨリ炭
酸ガスヲ吸ヒ込ムナリ、
鐵ヲ碎キ、片々ニシ、一ツ一ツニ、コ
レヲ見ルニ、動植物トハ事變リ、何

礦物ハ如
何

、里斗賣

、一、二

二

重ルヲ見シ、



動物如
何

毛年々歳々ニ、生エ代ルヲ見テモ明ナリ、偕其内

動物ハ、生レテ成長シ、遂ニ死亡ス、其食物ヲ要スルハ、占成長生温ノ為メニテ、又體ノ消耗ヲ補ハンガ為メナリ、動物ノ體ニハ、消耗ト補缺トノ絶ユル間ナシ、左レバ、今ノ體ハ、昔ノモノニアラズ、後ノ體ハ、又今ノモノニアラズ、其入り代リ立チ代リスルコトハ、鳥獸ノ羽

三界トハ
何ソヤ

外ノ消耗ヲ補フモノハ、食物ナリ、凡ソ萬物ノ大別ハ、無生體ト生體トナリ、マダ萬物ヲ分テ三級トシ、コレヲ三界ト云フ、礦物界植

第二

植物營養器生殖器ノ話

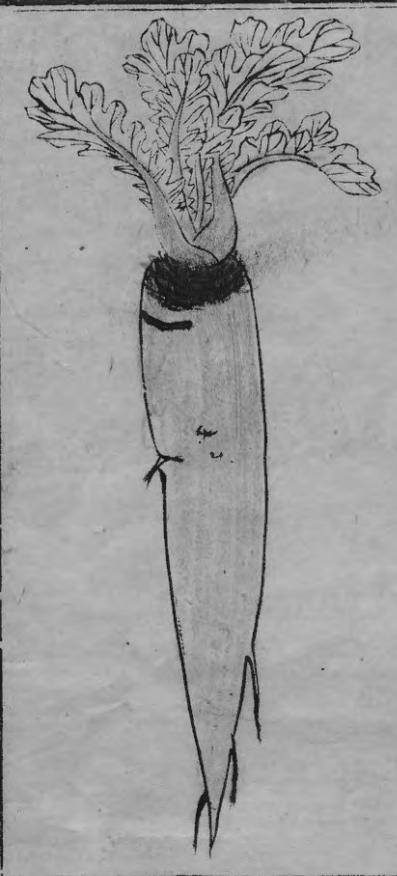
植物トハ、草木穀物蔬菜等、総テ地ニ植エテ、成長スルモノ、名ニシテ海草類ノ如キモ、亦其生活ノ模様略相似タルヲ以テ、コレヲ植物ト云フ、左レバ植物ハ、皆生レテ成長シ、又枯レ死ルコトアリ、故ニ食物ノ入用ナルコト、動物ニ異ナラズ、但

小學里斗賣本
第一卷上
三

植物ノ營
養器ハ何
カ

根ノ効用
ヲ問フ

シ食物ヲ消化シテ、體ヲ養フニ合ハ、同ジカラズ、
植物ノ營養器ハ、根、幹、莖及ビ葉ナリ、
根ハ、通常、土中ニ隱レテ、水又土壤津液ヲ溶解
液ニシテ、吸収ス、其延ルヲ見ルニ、養液ノアル方ニ
向フ、故ニ其役目ハ明ナリ、○根ノ形ハ、種々様々



ナリ、真直ナルヲ、
直根ト云フ、ダイ
コ。漢名ノ如シ、
圓キノヲ、圓根
ト云フ、カブ、ラ、
名漢

根ノ形ハ
如何

何ヲカ幹
ト云フ

蕪ノ如シ、小枝夥シク生ジテ、諸方ニ蔓ルモノヲ、
匍匐根ト云フ、ヘビイチゴ。漢名ノ如シ、細キ根、
シク相集テ、總ノ様ナルモノアリ、鬚根ト云フ、葱
ノ類コレナリ、
根ノ直グ上ニ在テ、土ヨリ挺出タル部ヲ幹ト云
フ、左レド、此名ハ、樹木ニ限ルナリ、物ニ依テハ、莖
ト云ヒ、又蔓ト云フ、故ニ總名ヲ幹、莖ト言フ、幹、莖
ハ、直立スルモノアリ、樹木、竹、稻、麥ノ如シ、他物ヲ
螺捲クモノアリ、葡萄、藤、葛ノ如シ、地上ヲ這フモ
ノアリ、ヘビイチゴノ如シ、地下ニ没入ルモノアリ

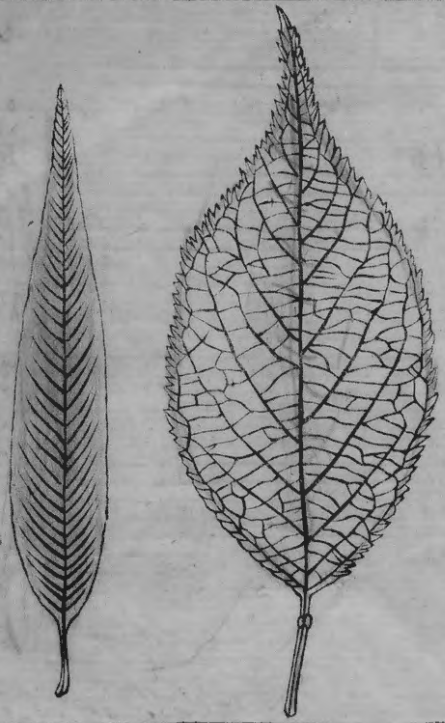
小學里斗賣本 第一卷上 四

液ノ効用
ヲ問フ

液ノ昇降
ハ何レノ
部分ヨリ
スルカ

リ、薩摩芋。漢名ジヤガ。タライモ。漢名馬落花生ノ
 如シ。根ノ吸收シタル液ハ、昇テ葉ニ至リ、復下
 テ、根ニ歸ル、即チ全體ヲ循環スルナリ、其初メ葉
 ニ達スレバ、變化シ、既ニ變化シタルモノハ、根ニ
 歸ルノ途スガラ、滋養分ヲ全體ノ各部ニ分配ス、
 木ヲ切レバ、液其中央ヨリ滲ミ出シ、又ハ流ル、
 コトアリ、故ニ津液上昇ノ證據ハ明ナリ、諸津液
 ノ昇リ下リハ、其道同シカラス、下ルモノハ、皮ノ
 下ヲ通ル、乃チ幹ヲ緊シク縛テ、時ヲ經レバ、其縛
 タル所ノ上ニ塊ヲ生ズ、コレ通り路ノ塞テ、液ノ

葉ノ形
如何



下ルコト、自由ナラザルガ故ナリ、
 葉ハ、綠色ニテ、大概平シ、葉柄アルモノヲ、多シト
 スレド、直ニ枝ニ接スルモノモアリ、葉ハ、植物ノ
 呼吸器ニテ、即チ動物ノ肺ナレド、其工合ハ、違フ

所アリ、動物ハ、空氣ノ
 酸素ヲ取テ、炭酸ガス
 ヲ吐キ出セド、植物ハ、
 炭酸ガスヲ取リ、其中
 ノ炭素ヲ消費シテ、酸
 素ヲ捨ツ、ガスノ遣リ

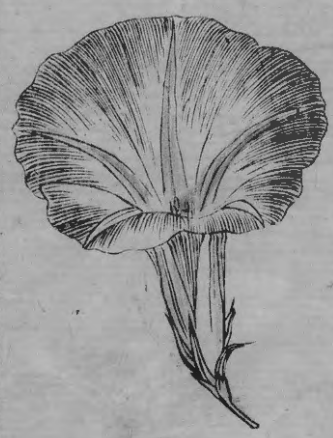
小學理科讀本 第一卷上

葉ノ効用
ヲ問フ

植物ノ生
殖器ハ何
カ

取リニ、斯クノ如キ反對アルハ、光線ノ力ニ由ル、
故ニ、暗キ所ニテハ、動物ト同ジク、酸素ヲ吸テ、炭
酸ガスヲ吐クナリ

以上、植物ノ營養器ヲ説タレバ、是ヨリ生殖器ノ
話ニ移ラン、諸植物ノ種子ヲ生ジテ、之ヲ繁殖ス
ル者ハ、花ナリ、花ハ、大抵萼、瓣、蕊ヨリ成テ、蕊ニ雌



雄アリ、此四ツノ者、各其用ヲ
異ニス、
萼ハ、花ノ外部ニアル小葉ノ
如キ者ナリ、花ニ依テ、其形同

萼ヲ問フ

ジカラズ、アサガホ牽牛ノ花、
ハ、五ツニ裂ケ、石竹ハ、筒状ヲ
ナスガ如シ、○瓣ハ、一名ヲ花
冠ト云フ、萼ノ次ニアリ、紅、白、
黄紫ナド種々美キ色ヲ呈ス、
其形モ、亦一樣ナラズ、アサガ
ホハ、一瓣ニシテ、ゴツプノ形ヲナシ、石竹ハ、六瓣
ナルガ如シ、



雄蕊一名鬚ハ、瓣ノ中ニ在ル系ノ如キ者ナリ、上
端ニ小囊ヲ戴ク、花ノ種類ニ依テ、其數異ナリ、百

植物ノ生
殖器ハ何
カ



雄蕊問

果實トナル者ハ此子房ナリ
花ハ通常此四ツノ者ヲ備フ、萼瓣ハ蕊ヲ保護シ、
雄蕊ハ花粉ヲ雌蕊ノ柱頭ニ注ギ、雌蕊ハ之ヲ受

合ノ雄蕊ハ六ツニ分レ、椿ハ
數多ノ雄蕊相集テ筒狀ヲナ
スガ如シ、○雌蕊一名心ハ花
ノ真中ニ在テ雄蕊其周リヲ
圍ム、雌蕊ノ下部ハ球狀ヲナ
シ、上部ハ小柱トナル、其下部
ヲ子房ト云フ、他日成長シテ

萼問

果實トハ
何カ

ケテ、實ヲ結ビ、子孫ヲ繁殖スルコトヲ司ル、左レ
ドモ、亦雄蕊ト雌蕊ト、其花ヲ異ニスルモノアリ、
夕ウモロユシ玉蜀黍、夕ウナス南瓜ノ如シ、雌雄其株
ヲ異ニスル者アリ、イチヨウ瓜樹ノ如シ、
果實ハ雌蕊ノ成熟シタル者ニシテ、内ニ種子ヲ
含ミ、之ヲ保護ス、他日同種ノ植物ヲ生ズル者ハ、
此種子ナリ、種子ハ、胚仁及ビ外皮ヨリ成ル、胚ハ、
他日植物トナル者ニシテ、仁ハ、胚ノ發芽スルニ
至ルマデ、之ヲ榮養シ、外皮ハ、胚仁ヲ包テ、之ヲ保
護ス、種子久シク土中ニアレバ、胚漸ク成長シ、外

種子ノ効
用ヲ問フ

皮ヲ破テ芽ヲ發ス、芽ノ上ニ向テ延ビ出ル者ハ
莖。幹トナリ、土中ニ入ル者ハ、根ト成テ、遂ニ同種
ノ植物ヲ生ズルナリ、

第三

植物類別ノ話

草木ノ花ハ、春夏ニ多シ、トイヘド、冬、日寒氣ニ屈
セズ、霜雪ノ中ヨリ、花咲クモノハ、水仙及ビ梅ナ
リ、此ニツノモノ、大ニ違フ所ハ、一目見テモ、明
ナリ、梅ナドハ、之ヲ木ト云ヒ、水仙ノ類ハ、草ト云
ヒ、之ヲ總稱シテ、植物ト云フ、其種類ハ、動物ニ比
ベテ、一層多シ、故ニ類ニ依テ、之ヲ別ダザレバ、其

混雜ハ、更ニ甚シ
カラシ、○草木ニ、
花ナキ者ハナシ、
左レド、アルヤナ
キヤ、見分ケノ付
カヌモノアリ、故
ニ、有花植物ト無
花植物ト、ノニツ
トナス、コレ植物
界ノ大別ナリ、植



植物ノ大別ヲ問フ

物分類法ハ種々ナレド、大抵皆此大別ニ依ル、無
花植物ハワラビ漢名トクサ、トクサ漢名イハヒ、ハヒ漢名
蕁類、海草ノ如シ、○梅、桃、櫻、松、杉、ナドノ幹莖ハ外
部ヨリ成長ス、故ニ有花植物中ノ外長部トス、種
類最モ多シ、其仁ハ必ず對ヲナス、故ニ又兩仁植
物ト名ヅク、クシユ漢名櫻、口漢名櫻、竹、稻、麥、葱、百合、茗荷、水仙
カキ漢名、ツバ漢名、タ漢名、子漢名、花漢名、燕漢名、等ノ幹莖ハ内部ヨリ成長ス、
之ヲ内長部トス、其數甚ダ少シ、又仁ノ數ハ對ヲ
ナサズ、故ニ單仁植物ト名ヅク、○無花植物ノ中
ニハ上ニ向テノミ成長スルモ、バアリ、之ヲ上長

四部トハ何ゾヤ

部ト云フ、ワラビ、トクサ、イハヒ、バノ如シ、又上下
縱横ニ成長スルモノアリ、通長部ト云フ、蕁類、昆
布、海苔ノ如シ、右ノ四部ハ、素トコレ其大別ノミ、
花ノ模様、瓣ノ多少ニ依テ、各細別アリ、又分科ア
レド、此課ニ於テハ、別ニ入用ナケレバ、略シテ
言ハズ、今其大別ヲ表ニ示シテ、一覽ニ便ス、

植物界



九

草木ノ世ニ益アル、廣大トヤ言ハシ、無量トヤ言
 ハシ、先ヅ春ハ、彌生半バノ花盛リ、四方ノ野山ハ、
 錦ノ如シ、斯ク人ノ目ヲ慰ムルハ、唯其益ノ一端
 ノミ、其實益ヲ言ハシ、第一ニハ、人ノ食料ニ供ス
 ベキモノアリ、果實穀物野菜ノ如シ、牛馬ノ食ニ
 必要ナルモノアリ、野草ノ類コレナリ、衣服ヲ製
 スベキモノアリ、家屋等ノ、建築ニ用フベキモノ
 アリ、蠟漆ヲ製スベキモノアリ、松杉檜檜ノ類、并
 ニ草綿麻ヲフノキノ如シ、之ヲ總稱シテ、工業用
 植物ト云フ、醫藥ニ供スベキモノアリ、ニハトコ

植物ノ効
 用並ニ其
 類別ヲ問
 フ

漢名接バク。和ノキ。漢名月。大黃ノ如シ、又毒アル
 モノアリ、蕈類ノ如キハ、毒ヲ有スルモノ少カラ
 ズ、コレ世人ノ善ク知ル所ナリ、故ニ、植物ヲ大別
 スレバ、有用ト有毒トノ二者トナリ、甲ヲ細別ス
 レバ、食用植物、工業用植物、庭園植物、及ビ藥用植
 物ノ四トナル。

第四 食用植物ノ話

本邦ハ、土地肥テ、穀物善ク登ル、左レバ、瑞穂ノ國
 トテ、其名四海ニ高ク、肩ヲ並ブル國、ズルコトナ
 シ、ト誇ル、我が國民ハ、又農業ニ長ジ、昔ヨリ田畑

ノ作物、澤山ナルニ、近頃ハ、外國ノ植物モ傳タレ
 バ、食用植物ハ、年々歳々ニ増殖シテ、其數實ニ少
 カラズ、コレニテ、事ハ足ルベキニ、山野河海ニハ、
 自然ニ生ズル植物アリ、其中ニハ、人ノ食用ニ十
 ルモノモ、亦カラズ、先ヅ山林ニ入レバ、果實ヲ
 初メトシテ、グミ、ヤマナスノ類ヨリ、ワラビ、ゼン
 マイ漢名ハ更ナリ、蕈類ニ至ルマデ、食フベキモ
 ノ多シ、但シ蕈ニハ、毒アルモノアリ、平日見慣レ
 ザルハ、食フベカラズ、況シテ、自然生ノ芋ハ、味殊
 ニ美ナリ、樹木ノ根ハ、如何ニト言フニ、コレモ飢

饑年ナドニ
 ハ、隨分食ハ
 ヲ食フベシ、
 儲又野ニハ、
 アカザ漢名
 ツル漢名
 ヨメ漢名
 腸漢名
 シ漢名
 リ、濕地ニハ、



漢名筆ア
 第一卷二
 十一

クワ。中漢名アリ、芥有テ、自然生ノ芥ハ、殊ニ香シ、池ニハ、ジユン漢名アリ、海ニハ、食フベキモノ、殊ニ多シ、昆布漢名ヲカメ漢名帯菜漢名ヒジキ漢名羊漢名十ドハ、海草ニテ、トコロテ、并ニ東京ノ名産、淺草海苔モ、海草ヨリ製ス、左ラバ、自然生ノ植物ノミニテ、料理セントスルモ、決シテ差支ハナシ、斯ク海ニモ、山ニモ、自然生ノモノ多ケレド、時ニ依テ、絶エ間アリ、殊ニ惜ムベキハ、之ヲ採ルニ、時間モ手數モ、掛ルコト少カラズ、依テ培養スルコソ、宜シケレ、乃チ茲ニハ、培養植物ヲ説カ

何ヲカ食用食物ト云フ

何ヲカ穀物ト云フ

米ノ種類並ニ其用ヲ問フ

ントス、○食用植物ヲ大別スレバ、穀物、野菜、果實ニテ、牧草ハ、畜類ノ食料ナリ、

第五 穀物ノ話

穀物トハ、米、麥、粟、稷、稗、モロコシ漢名蕎麥漢名蕎麥漢名タウモロコシ漢名及ビ豆類ヲ謂フナリ、○米ハ、稻ノ實ニテ、二種アリ、一ヲウルチ漢名ト云ヒ、マヲモチ漢名メ漢名ト云フ、二種トモニ、早稻、中稻、晚稻ノ別アリ、又畑ニ作ルモノヲ、オカボ漢名ト云フ、平日炊テ、飯トスルハ、ウルチニテ、搗テ餅トシ、或ハ製シテ菓子トスルハ、モチ漢名メ漢名ナリ、左レバ、米ハ、

八里半賣六 第一卷二 十二

三日モ五クテ、叶ハ又品ヲ
リ、其種蒔植付ノ時候及ビ
培養ノ方ハ、地方ニ依テ、違
フ所アレド、種蒔ヨリ、收納
ニ至ルマデノ手数ハ、中々
容易ノ事ニアラズ、尚其間
ニ蟲類ノ害アリ、洪水旱魃
ナド有テ、其度毎ニ、手當ヲ
スル杯、其有様ヲ述ベント
スルモ、拙キ筆ノ、及ブベキ



陸稻トハ
如何ナル
者ナリヤ

米ニ次テ
必用ナル
ハ何カ

所ニアラズ、粒々皆農夫ノ汗トハ、古人ノ銘言ナ
リ、夢々之ヲ忘ルベカラズ、或ル人ノ發句ニ、玉の
汗流きて末ハ米の粒トアリ、コレハ、古人ノ言ト、
意相同ジ、○オカボハ、畑ニ作ルノミナラズ、外ノ
地ニテモ、濕氣有テ、畑ニハ宜シカラズ、去リトテ、
水足ラズシテ、並ノ稻ニハ、亦宜シカラザル所ニ
テモ、植エテ可ナリ、○米ハ、邦人ノ常食ト言ヘド、
富ム人又ハ都會ナド、コレヲ左モアラシ、廣ク國內
ヲ見渡セバ、麥ノ方、却テ常食ナレバ、麥コソ、眞ニ
ナクテ、叶ハ又モノナリ、コレニハ、大麥、小麥、裸麥

農書 第一卷 十三

麥種類
並ニ其効
用ヲ問フ

ノ三種アリ、醋餡ナ
ドヲ造ルニハ、大麥
ヲ用ヒ、挽テ細粉ト
シテ、温飩、索麵、麩、パ
ン、菓子ナドヲ造リ、
又醬油ナドヲ製ス
ルニハ、小麥ヲ用ヒ、
味噌、麥麴ヲ製スル
ニハ、裸麥ヲ用フ、炊
テ飯トスルニハ、大



粟稷
問フ

麥又ハ裸麥ナリ、○外國ニテハ、小麥ヲ一番大切
ニスレド、我カ國ニテハ、先ヅ第一番ニ米、其次ハ
大麥及ビ裸麥ナリトス、
粟ハ、炊テ食ヒ、釀シテ酒トシ、又製シテ水飩トス、
粟ノ水飩トテ、人ノ善ク知ル所ナリ、餅粟ハ、餅及
ビ蒸菓子トス、○稷モ亦兩様有テ、飯餅トシ、又團
子トスルニ宜シ、小鳥ハ、好テ之ヲ食フ、故ニ飼鳥
ノ餌ニハ、尤モ宜シ、左レド、培養ニハ、餘程氣ヲ付
ケテ、鳴子又ハ案山子、扱ヲ設クベシ、左ナクテハ、
防ギノ届カスモノナリ、○稗モ亦兩様アリ

漢名下ハ高麗
 黍又南蠻黍ト
 云フ近頃ハ亞
 米利加ノ種ヲ
 培養スルモノ
 アリ其粒大ク
 味甘シ儲其時
 時ハ四月ノ中
 旬ヨリ凡ク百



玉蜀黍落
 花生蕎麥
 フ問フ

日ノ間ニテ七日毎ニ蒔ケバ又百日ノ間ハ絶エ
 ズ新キ品アリ○落花生ハ支那ヨリ渡タルガ故
 ニ南京豆ノ通名アリ炙テ食ヘバ香氣有テ味美
 ナリ又搾テ油ヲ取ルベシ○蕎麥ハ一年ニ三度
 ノ登ナリ其益誠ニ大ナリ何方ニテモ食料ニ用
 フル彼ノソバキリハ蕎麥ノ粉ニテ製スルモノ
 ナリ
 日用ノ味噌醬油豆腐ハ皆大豆ヲ以テ製ス大豆
 ハ黄白青黒ノ四種アリ其熟セザルモノヲ煮テ
 食ヘト多クハ熟シテ後ニ用フ又アヅキ漢名赤小豆

本草綱目卷之七十一
 豆部
 玉蜀黍
 落花生
 蕎麥

ソラマメ、漢名豆エンドウ、漢名豆ハ、熟セザルヲ煮テ食フ、或ハ熟シタルモノヲ貯レバ、様々ノ用途アリ、先ヅアヅキ、ソラマメハ菓子餅團子ノ餡トシ、



又エンドウ、ソラマメハ炙テ食フ、イन्दゲン、漢名豆マメ、漢名豆マメ、漢名豆セザルモノヲ煮テ食ヒ、ナタ

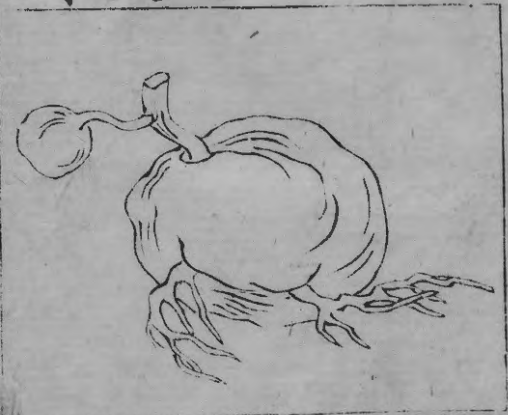
豆類ノ種
類効用ヲ
問フ
竹ハ如何

マメ、漢名豆ハ、莢ノ儘漬テ食ヒ、或ハ煮テ食フコトモアリ、○竹モ、稀レニハ實ヲ結ブコトアリ、穀物ノ味ニ似ル所アレバ、食フベシ、又筍ハ、大概食フベシ、故ニ竹ヲ培養シテ、筍ヲ作ルコトアリ、

第六 野菜ノ話

食用植物ノ中ニテ、無クテ叶ハヌモノハ穀物ノ次ニ薩摩芋ナリ、其昔琉球ヨリ渡タルガ故ニ、琉球芋トモ云フ、初メハ薩摩ニノミ有リシガ、今ハ全國ニ繁殖シ、地方ニ依テコレヲ常食トスルノミナラス、東京ナドニテモ、遂ニ貧者ノ常食トナ

リ、又飢饉年ノ用意ニハ、コレニ越スモノナキニ至レリ、味甘美ナルガ故ニ、或ハ蒸シ、或ハ焼テ食フ、其用途ハ、右ノ箇條ノミナラズ、醬油ヲ造リ、酒ヲ釀シ、葛粉ヲ取リ、砂糖ヲ製ス、但シ砂糖ハ、多ク甘。蔗ノ莖ヨリ取リ、所謂ル吉野葛ハ、葛ノ根ヲ晒シテ、之ヲ製スルナリ、又薩摩芋ノ切り屑ハ、豚ナドノ餌ニ最モ宜シ、○ジヤガタライモハ、滋養分ノ多キコト、薩摩芋ノ及ブ所ニアラズ、左レバ、外國ニテハ、



薩摩芋及
ビ馬鈴薯
ノ効用ハ
如何

小麥ノ次ニ、之ヲ珍重ス、我カ國ニテハ、近來初メテ培養シ、日マノ食用ニスルハ、誠ニ稀レニテ、未ダ米麥ナドニ肩ヲ並ブルニ至ラズ、



根ヲ食ストハ世俗ノ常ニ言フ所ナレド、眞ノ根ト言フベキハ、ダ。イ。コ。ン。ニ。ン。ジ。ム。漢名。胡。蘿。蔔。牛。蒡。カ。ブ。ラ。位。ナ。リ。蓮。根。百。合。根。葱。ノ。白。根。ナド言フモノハ、全ク

根ヲ食フ
ベキ者ハ
何カ

根ノ莖ノ別ヲ問フ

食フベシ部分ニ類テ野菜ト名ヲ擧グ

莖ニテ、眞ノ根ハ、別ニ鬚ノ如キモノアリ、薩摩芋ハ、莖ノ處々ニ、膨^テヲ勃スナリ、根ニアラズ、根ハ、養液ヲ吸ヒ、莖ハ、芽ヲ出スモノナリ、野菜ノ中ニテ、ハウレンサウ^{漢名}、シサウ^{漢名}、葱菜^{漢名}、ナドハ、葉ヲ食フベシ、別ニ葉莖共ニ、食フベキモノアリ、芥^{漢名}、ミツバ^{漢名}、ナドナリ、但シ芥ハ、自然生ナレド、亦之ヲ培養ス、フキ^{漢名}、ハ、葉柄ヲ食ヒ、其莖^{漢名}ヲモ食フベシ、ウド^{漢名}、當歸^{漢名}、ワケギ^{漢名}、冬葱^{漢名}、茗荷^{漢名}、ナドハ、莖ヲ食ヒ、茄子^{漢名}、冬瓜^{漢名}、キウリ^{漢名}、胡椒^{漢名}、山椒^{漢名}、ウリ^{漢名}、越瓜^{漢名}、夕^{漢名}、ナス^{漢名}、南瓜^{漢名}、類ハ、果ヲ食フ、胡椒^{漢名}、山椒^{漢名}、

生薑^{漢名}、タウガ^{漢名}、ラ^{漢名}、薑^{漢名}、芥子^{漢名}、ワサビ^{漢名}、類ハ、陪味トスベシ、茗荷^{漢名}、葱^{漢名}、ナドモ亦然リ、但シ辛キモノハ、多ク食ヘバ、胃ニ害アリ、心得テ食フベシ、

第七 果實ノ話

春過ギテ、夏ノ初メニ、暑氣未ダ來ラズ、天ハ、兔ニ角兩勝チニテ、稀レニハ、袂涼シク、秋ハ、早來ニケリ、ト思フコトアリ、梅ノ果實ハ、此時熟ス、故ニ此雨^{漢名}、梅雨^{漢名}トハ、名ヅケタリト云ス、抑モ梅ノ多ク實ヲ結ブハ、花瓣ノ少キ野梅ニテ、瓣多キモノハ、其實少シ、左レバ、實ヲ取ラントスル人ハ、重ニ野

梅ノ効用ヲ舉ケヨ

梅ヲ培養ス、偕梅ノ實ハ、誠ニ結構ナルモノナレド、生ニテ食フハ、宜シカラズ、鹽漬ナドニスルコソ、宜シケレ、鹽ヲ撒テ、時ヲ經レバ、一種ノ酸汁ヲ生ズ、之ニ紫蘇ノ葉ヲ浸シテ、揉ミ出セバ、赤色ヲ呈ス、俗ニ謂フ、梅醋ナリ、染料ニ用ヒテ、ヨロシ、世間ニ梅干ト稱シテ、食用トスル品ハ、右ノ赤汁ニ添タルモノニテ、紫蘇ノ葉ニ包タルヲ、紫蘇卷梅干ト云ヒ、砂糖漬ニシタル生梅ヲ、甘露梅ト云フ、梅ニ次テ、實ノ熟スルモノハ、桃ナリ、夏熟スルヲ夏桃ト云ヒ、秋熟スルヲ秋桃ト云フ、生ニテ食ヒ、

桃ハ如何

或ハ砂糖漬トス、秋桃ハ、味殊ニ美ナリ、其花ニハ、赤白淡紅等アレド、實ノ最モヨキハ、淡紅色ノモノニ在リ、故ニ、實ヲ取ルニハ、之ヲヨシトス、種子ノ發芽ヨリ、三年ヲ經レバ、實ヲ結ブ、但シ高燥ノ地ニテハ、出來宜シカラズ、梨リンゴ漢名林檎ノ實ハ、共ニ生ニテ食フ、梨ハ、漿多ク味美ナリ、夏日ノ果中、最モ佳品ト稱ス、人ノ大ニ好ムモ、其理ナリ、寒氣ヲ畏レザルガ故ナリ、北國ニモ、名産アリ、リンゴノ昔ヨリ我邦ニアルモノハ、果小ク、近頃外國ノ種ヲ培養スルモノハ、果大

梨リンゴ
ヲ問フ

ニテ、味モ、殊ニ美ナリ、其培養ニハ、共ニ濕地ヲ撰ムベシ、

葡萄ノ効
用ヲ問フ

葡萄ハ、蔓ノ長サ、數十丈ニ至ル、其葉ハ五ツニ分レ、果ハ叢生シテ、宛モ總ノ如シ、漿多ク、且ツ甘クシテ、酸味ヲ帶ブ、生ニテ食フニ宜シ、砂糖漬ニスルモ、亦佳ナリ、諸國共ニ培養スレド、甲州ノ産最モ名高シ、近頃ハ、外



柳ハ如何
ニシテ食
フベキヤ

國種ヲモ培養ス、柳ハ、種類多シ、御所ハ王子、蜂屋ナドハ、樹上ニ熟ス、此外ニ、人エヲ經テ後、初メテ澁氣ヲ脱スルモノアリ、之ヲ樽柳ト云ヒ、又アワシ柳ト云フ、或ハ



乾シテ、白粉ヲ招タルモノアリ、乾柳ト云ヒ、又串柳ト云フ、皆食用ニ供ス、イチジウク漢名無ハ、生ニテ食フベシ、

イ子チユ
クニハ花
ナキカ

無花果ノ名アレド、其實ハ、花ナキニアラズ、花細ク、且ツ果ノ内ニ開テ、外ヨリハ、見エ難キノミ、栗ノ實ハ、殻内ニアリ、殻ハ、圓クシテ刺アリ、兒供ノ玩弄スルハ、極メテ危シ、炙テ食ヒ、或ハ蒸シテ食フ、味甘美ニテ、薩摩芋ニ似レド、之ニ勝ル、俗ニ薩摩芋ヲハ里半ト唱フ



栗ハ其味
如何
銀杏ハ何
ノ實ナリ

ルハ、栗ト九里ト、發音同ジキガ故ニ、其味ノ少ク、栗ニ及バザルヲ評スルナリ、○銀杏ハ、イ子ヨウノ漢名公ノ實ニテ、亦殼ノ内ニアリ、炙テ食ヒ、或ハ煮テ食フ、柚、橙、蜜柑、九年母ハ、皆生ニテ食フベシ、此中ニテ、人ノ最モ好ムモノハ、蜜柑、九年母トス、甘クシテ、酸味ヲ帯ビ、最モ佳品ナレバナリ、柚、橙ハ、酸味強ク、甘味少シ、左レド、柚ノ皮ハ、香氣自ラ他品ニ優ル、故ニ陪味ニハ、必要ナリ、柚ニ、味噌ヲ交ゼテ、炙タルモノハ、佳味アリ、之ヲ柚味噌ト云フ、又製シ

本草綱目卷之二十一
二十一

柚
蜜柑
九年母ノ
効用ヲ
録
ケヨ

テ柚餅子トス、備中矢掛ノ名産ナリ、○橙ハ、一月
ノ七、五、三、飾ニ用ス、此他、實用ノ途少カラズ、先ヅ
搾汁ハ、即チホンスニテ、貯ヘ方、宜シケレバ、久シ
ク保ツ、夏日ノ消暑飲料ニ、妙ナリ、其皮ヨリ、取タ
ル油ハ、所謂ル橙皮油ナリ、○右ノ諸果ハ、暖地ニ
多シ、殊ニ、蜜柑ハ、紀州ノ名産ニテ、其名世ニ高シ、
其外、杏、李、巴旦杏等ハ、前ニ述べタルモノト、同様
ニ、生ニテ食フベシ、○果實ノ、生ニテ食フベキモ
ノモ、未熟ノ品ハ、病ノ原トナル、故ニ、其ヨク熟ス
ルヲ待テ、食フベシ、柿ナドハ、尚更ノコトナリ、又

果實ノ未
熟ナルヲ
食ハバ如
何

梨。乾。柿。蜜。柑。九。年。母。ノ。類。ハ。齒。ノ。痛。ヲ。發。ス。コ。ト。ア
リ。心。得。テ。食。フ。ベ。シ。

第八 牧草ノ話

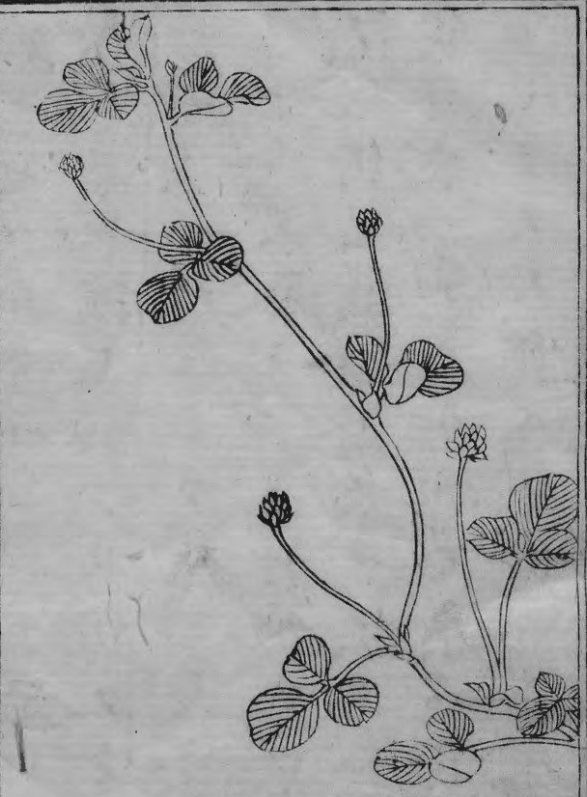
春日、野外ニ遊ベバ、雲井ニ續ク、野モ山モ、青マツ
シテ、海ノ如ク、實ニ、美キ眺ナリ、偕其青キモノハ、
植物ニテ、人ノ食用トナルモノ多シ、又人ノ口ニ、
合ハザルモノハ、牛、馬ノ食トナル、牧草是ナリ、草
木ハ、斯ク無用ノモノ更ニナシ、造化ノ智、仰クベ
シ、近時ハ、別ニ地ヲ擇テ、牧草ヲ培養ス、ウマコヤ
○漢名ノ如キ是ナリ、刈テ之ヲ家ニ貯フヲ常ト

、里斗賣

第一卷二

二十二

息毛和言ス
七段一巻



ニ飼ヒ置クコトモアリ、○儲灰ハ、野草ヲ養フモ
ノナレド、目ニ餘ル原野ニ、之ヲ蒔キ散ラスコト
ハ、行ハレズ、依テ冬日、牧草ニ火ヲ付ケテ、之ヲ燒
ス、左レド、又牛馬ヲ
放テ、其食フニ任ス
モノアリ、コレヲ牧
野ト云フ、朝夕牛馬
ヲ牧野ニ、送り迎ヒ
スルアリ、又野邊ニ、
小舎ヲ設ケテ、此中

冬日牧草
ヲ燒クハ
何ノ爲メ
ナリヤ

牛馬豚ナ
下ハ何ヲ
食フカ
養ハ何ヲ
食フカ

ク、コレ燒後ノ灰ヲ、肥料トシテ、來春新芽ノ成長
ヲ促スナリ、亦好キ手段ナラズヤ、○牛馬ハ、藁又
ハタウモロコシ、豆、杯ノ莖ヲモ食ヘド、如何ニ畜
類ナレバトテ、コレニテ足レリトスルニハアラ
ズ、大豆、米糠、麥、エンドウ、ダイコン、ニンジン、カブ
ヲ、皆食フ所ニシテ、殊ニ大豆ハ、馬ノ最モ嗜ムモ
ノナリ、又豚ナドハ、穀物野菜ノ別ナク、皆好テ食
フ、○儲又蠶ハ、絹糸ヲ供スル貴重ノ蟲ナレド、其
食ハ、桑ノ葉ナリ、抑モ桑ハ、其葉ノ斯ク必要ナル
ノミナラズ、實ハ、味美ニテ、人ノ食用ニ宜シ、

學里科賣本
第一卷上
二十三

第九 工業用植物ノ話

貴賤貧富ノ別ナク、日々ノ飲料ニ供スルモノハ、
 茶ナリ、之ニ紅、緑ノ二様アレド、製法ニ依テ異ル
 ノミ、茶ハ、我が國ノ輸出物中ノ、貴重品タリ、故ニ、
 近時ハ、國內之ヲ培養セザル所ナク、從テ製法モ、
 大ニ開ケタリ、左レド、其名ノ四方ニ、高キモノハ、
 山城ノ宇治、近江ノ信樂、武藏ノ挾山等ノ産ナリ、
 ○茶ノ樹ハ、灌木トテ、高サ三四尺ニ過ギズ、枝ハ、
 幹身ノ下部、僅ニ地上ヲ出ル所ヨリ、叢リ生ズ、葉
 ハ小ク、花ハ白ク、實ハ黒シ、其葉ヲ摘ムノ法ハ、五

月ノ初メヨリシ、先ヅニ
 三葉ヲ擇テ、之ヲ摘ム、之
 ヲ一番芽ト云フ、上等ノ
 茶ハ、コレヨリ製ス、夫レ
 ヨリ、三十日許ヲ經テ、生
 ズル芽ヲ二番芽ト云ヒ、
 更ニ生ズルモノヲ、三番
 芽ト云フ、順次ニ、之ヲ摘
 ムベシ、右ノ一番二番三
 番ニ從テ、品ニ上中下ノ三等アリトイヘドモ、茶



茶事ヲ
話セヨ

ノ味ト價ノ各異ナルトハ、又肥料ト製法ノ各異
ナルトニ因ル、最モ上等ナル品ハ、一斤ニ付キ、其
價數圓ナレド、下等ニ至テハ、十錢以内ニ在リ、
我が國貧人ノ、平時製シテ、衣服トスル者ハ、木綿
ナリ、抑モ綿ハ、草ノ實ニテ、其草ヲ綿草ト云フ、一
年ノ間ニ、種子ヨリ芽ヲ生ジ、成長シテ、花咲キ、實
ヲ結テ後、枯ル、草綿ノ名コソ、其實ニ適フ、外國ニ
ハ、綿ヲ生ズル木アレド、我が國ニハ、未ダ曾テ之
アルヲ聞カズ、偕綿草ハ、春、其種ヲ蒔ケバ、夏、花咲
キ、實ヲ結ブ、其形ハ、桃ノ如シ、之ヲ綿房ト云フ、房

綿ノ
効用
ヲ舉ゲヨ

熟スレバ、破レテ綿ヲ吐ク、其色白キヲ常トスレ
ド、茶色ノ品モアリ、其熟スルモノヲ取り、綿繰器
械ヲ以テ、之ヲ繰レバ、種子ヲ去ルニヨロシ、又弓
ニテ打テ、軟ニシ、糸車ヲ用テ、引延シテ糸トシ、次
ニ、之ヲ織ル、即チ世ニ言フ木綿ナリ、種子ハ、之ヲ
綿實ト云フ、挽キ割テ、殻ヲ除キ、搾テ油ヲ取ル、冬
夜ニ凍結スルコトナシ、左レバ、燈火ノ用ニハ、菜
種油ニ優ルトリ、且ツ其挽殻ハ、燃料ニ用ヒ、油ノ
搾リ糟ハ、肥料ニ宜シ、
夏ノ夜ハ、蚊ニ困レド、コレハ追テモ、追ヒ盡サレ

小學校科書
第一卷
第一卷上
五

麻ノ効用
ヲ擧ゲヨ

ズ、蚊帳ニテ、防グニ如クコトナシ、之ヲ作ルニハ、麻ヲ用フ、乃チ其皮ヲ剥ギ、器械ニテ打テバ、粗皮ハ、皆落ツ、之ヲ乾セバ、糸ノ如クニナル、織テ布トシ、又綱ヲ作ルベシ、



見渡せを柳櫻とよきまぜて都ぞ春の錦ありけり、ト太田道灌ハ、詠ミタレド、春ノ錦ハ、田舎ノ方

平常用フ
ル油ハ綿
實ノ外何
ヨリ搾ル
カ

却テ優レリ、麥ノ青々トシタル頃、黄色ノ花、打チ雜リ、咲キ残タル桃ナド、景色ヲ添ヘタル様ハ、得モ言ハレズ、其黄色ナルモノハ、菜ノ花ナリ、其葉ハ、食フニ宜シ、之ヲアブラト云ヒ、其種子ヨリ、搾タル油ヲ、菜種油ト云フ、誠ニ結構ナル油カレド、胡麻ノ油ニハ、劣レリ、胡麻ノ油ハ、食用ニ供スベシ、又椿ノ油ハ、カタチノアブラト云フ、婦人ノ頭髮ヲ粧フニ用フ、本箱机、椅子ナドハ、松、杉、又ハ桐等ヲ以テ作ル、松ハ、喬木ニテ、赤、黒ノ二種アリ、實用ノ途ハ、極メテ

何ヲカ喬
木ト云フ

廣ク又
庭園ノ
景色モ
松ナク
テハ淋
シ五葉
ノ松ハ
殊ニ美ナリ、偕喬木トハ、幹身ノ下部ニ、枝ヲ生ゼ
ズシテ、真直ニ長ク延ルモノハ、總名ナリ、
杉ハ、山林ニ多シトイヘド、亦殊ニ之ヲ培養ス、用



松杉桐ノ
効用ハ如
何

途頗ル多シ、架橋、帆檣、家屋ノ建築、酒樽、水桶ナド、
種々ノ器具ヲ製ス、
桐ハ、質輕クシテ、運搬ニ便ナリ、故ニ、杙ナドヲ作
ルニ宜シ、下駄ニスルモ、畢竟ハ輕キコトヲ思テ
ナリ、又濕氣ヲ防グガ故ニ、箆筒、本箱ナドニハ、極
メテ妙ナリ、
其他材ノ用フベキモノ、枚舉スルニ遑ナシトイ
ヘド、先ヅ柳ハ、俎トナリ、イチヨウハ、碁盤又ハ印
材トナル、○楮又粟ハ、永ク土中ニ在ルモ、容易ニ
朽チズ、左レバ、杭或ハ堀リ立柱ナドニハ、適要ノ

本草綱目卷之二十一
木部
一
二

柳栗檜桑
柳等諸材
ノ効用ヲ
擧ゲヨ

者ナリ、○檜ハ材王ト稱ス、或ル材木商ノ説ナリ、
是ハ外見ノ何ニトナク、貴キガ故ナラン、又質緻
密ニテ、濕氣ヲ防グノ實カアリ、左レバ、橋梁、帆柱、
家ノ土臺ナドニハ、必要ノ材ナリ、其外、戸障子ヨ
リ、日用ノ小器ニ至ルマデ、用途擧ゲテ言フベカ
ラズ、○桑柳等モ、用途頗ル多ク、殊ニ柳ハ、屋根板
トシテ、十餘年ノ久シキニ、亘ルト云フ、
ウルシ漢名ノ木モ、色々種類アリ、種々ノ器具ヲ
作ルニ宜シ、左レド、コレハ、持前ノ用途ニアラズ、
其脂ハ、更ニ貴重ナルモノニテ、先ヅ塗劑ヲ製ス

ウルシノ
効用ヲ問



ノ輪車ノ軸、鋤鍬ノ柄、算盤六尺棒ヲ作ル、又薪ト
シ、炭トスベシ、○槓ハ、專ラ薪ニ用フ、故ニ薪ハ、此

ベク、又蠟ヲモ製スベ
シ、此塗劑ハ、世間ニ所
謂ル漆ナリ、之ヲ以テ、
器具ノ表面ヲ塗レバ、
第一、濕氣ヲ防ギ、次ニ、
外見ヲ美ニス、○カシ
漢名ハ、最モ堅キガ故
ニ、船ノ櫓楫ヲ作り、車

櫛櫛ハ何
カヲ用フル

外種々アレド、東京ニテハ、俗ニ薪ヲ總稱シテ、櫛
ト云フ、以テ知ルベシ、
ケヤキ、漢名樟ハ、兩ツナガテ、堅質ナレバ、大船ヲ
造ルニ、必要ナルノミナラズ、屋舎ノ柱トシ、又諸
種ノ器具ヲ作ルニ宜シ、○シユロノ皮毛ハ、善ク
濕氣ニ堪フ、故ニ、水ニ近ヅクモノハ、多ク之ヲ以
テ造ル、左レバ、船中ノ繩綱ヨリ、井戸繩ニハ、極メ
テ賞用ス、又箒ヲ作ルニ宜シ、シユロ箒トテ、誰モ
善ク知ル所ナリ、
和漢ノ書物ハ、木版ヨリ成ル、コノ字ゴノ文ヲ、木

櫛櫛シユ
ハノ効用
ヲ問フ

櫻ノ効用
ヲ舉ゲヨ

紙ハ何ニ
カヲ製スル

材ニ彫刻シテ後、墨ヲ施シ、紙ヲ上セテ摺レバ、文
字、忽チ紙ニ印ス、木版トハ、之ヲ謂フナリ、上等ノ
版ニハ、梓ヲ用フレド、大概ハ、櫻ニテ事足レリ、櫻
ノ質ハ、緻密ニテ、諸器ヲ作ルベシ、其皮モ、亦用途
多シ、○繪ヲ書キ、字ヲ寫スニハ、必ズ紙ヲ要ス、紙
ハ、又織テ布トス、之ヲ紙布ト云フ、寒ヲ防グノ力
ハ、木綿ニ劣ラズ、紙ハ、楮ヨリ製ス、楮ヲ培養スル
ハ、重ニ、コレガ為メナリ、楮又西洋紙ト稱スル品
ハ、ボロキレ廢布、ホロキレ廢紙ヲ以テ製ス、楮ノ紙トハ、質相同
ジカラズ、

竹ノ形状
効用ヲ問
フ

筆筒、墨、挾ハ、竹ナリ、竹ニモ、種類多シ、其種類ノ異
ルニ從テ、用途同ジカラズ、左レド、何レモ皆、幹、枝
共ニ圓久、中虛ニテ、
節アリ、色ハ青シ、家
屋ノ建築ニ用ヒ、又
日用ノ家具ヲ製ス、
近頃ハ、外國人モ、其
製造品ヲ珍重スト
云フ、
煙草ハ、其昔外國ヨ



煙草ハ何
處ノ産最
モ名高キ
カ

藍玉ハ何
ニテ製ス
ルカ

年ノ初メ
ニ咲ク花
ハ何カ

リ渡タルヲ、初メトスレド、後世ニ至テハ、諸國ニ
培養シテ、外國産ニ劣ラザルモノ多シ、中ニモ、薩
摩ノ産最モ上等ニテ、其名四方ニ高シ、
藍ハ、染草中ノ、最モ要用ナル品ニテ、田ニ作ルト
畑ニ植ウト、ノニ様アリ所謂ル藍玉ハ、其葉ヲ以
テ製シタル者ナリ、

第十 庭園植物ノ話

凡ソ花ノ開クヤ、土地ノ寒暖時候ノ順逆ニ應ジ
テ、遅速アレド、先ヅ、年ノ初メニアルモノハ、梅花
水仙ニテ、此等ハ、一月直様床ニ飾テ、賀客ノ覽ニ

小原里斗賣本

第一卷上

三

梅ハ皆一
時ニ咲ク
カ

供スルコソヨケレ、○偕又庭園田畑ノ花ヲ數フ
レバ、薔薇、サバンクワ、漢名茶梅尚咲キ殘タルツガ中
ニ、新ニ咲クヤ梅ノ花、此處ニ落ツレバ、彼處ニ咲
テ、絶エ間ナシ、コハ理ニ於テ、左モ有ラン、抑モ梅
ニハ、冬至梅、寒紅梅、ヤバ、漢名江梅臘梅、寒梅、早梅、十
ド、様々アリ、此等順ヲ逐テ開クガ故ナリ、○斯ク
絶エ間ナキガ故ニ、眺ハ已ニ十分ナルニ、尚ツバ。
キ、漢名山茶アリ、コレモ亦種類少カラズ、紅白、淡紅、絞
有テ、實ニ面白キ花ナリ、ト思フ日數モ、尚少キニ、
泊木蓮アリ、又ボケ、漢名木瓜モ有テ、次テ開クツガ中

櫻ノ最モ
早ク咲ク
者ハ何カ

ニ、後レテ咲クヤ、豊後梅、紫木
連モ時候トナリ、桃、杏、次テ咲
ク、偕又次ハ、待チニ待タル櫻
ニテ、彼岸櫻ハ、真先ニ咲キ、夕
ニ、漢名蒲公英ハ、其後ナリ、○櫻
ノ種類モ、様々ニテ、又土地ノ
寒、暖、時候ノ順、逆ニ依テ、咲ク
時モ同ジカラズ、先ヅ東京ニ
テ、彼岸櫻ハ、三月ノ末ナリ、夫
レヨリ續テ咲クモノアリ、ハ、



重櫻ハ、四月ノ中旬

ヲ常トス、其頃ハ、空モ丁度温
ナレバ、人々先キヲ争フ、遊山
ニテ、春ノ日ノ長キヲ忘ル、實
ニ咲キ亂レタル有様ハ、肩ヲ
並ブルモノハナシ、故ニ、花ト
言フベキモノハ櫻ノミト昔
ノ人ノ説キシヨリ、花ト言ヘ
バ、櫻ト知り、櫻ト言ヘバ、花ト
思フハ、實ニ其理アリ、○夫レヨリシテ、梨、海棠、リ
ンゴノ花有テ、海棠ハ、殊ニ人々之ヲ賞ス、又ユス



櫻ノ最モ
後ニ咲ク
者ハ何カ

雅人ノ珍
玩スルモ
ノハ何カ

ヲ、漢名ニハ梅漢名郁李、金盞花、山吹、咲テ、八重櫻、ウワ
ミヅ、櫻ハ最モ遅シ、○時ニ、薔薇モ咲キ、雜リ、木香
テマリ、漢名繡コデンマリ、漢名麻イチハツ、漢名
丁子、藤モ咲ク、○牡丹ハ、種類甚ダ多ク、何レモ、人
ノ好ムモノ、芍薬、百合ハ、牡丹ニ次テ、之ヲ愛ス、百
合ニハ、テツポウユリ、料理ユリ、鬼ユリ、夕モトユ
リ、琉球ユリ、ヒメユリ、漢名山丹、ナドノ別モアリ、ケシ
漢名モ、紅、白有テ、瓣ニハ、八重アリ、一重アリ、皆美
シ、ザク、口、漢名石榴、桐花ハ、雅人ノ珍玩スルモノニテ、
風致アリ、○十ツ、ユキハ、紅ク、アワモリハ、白ケレ

八景詩集 卷一 三十二

紫陽花
其色如何

アサガハ
ハ培養ニ
依テ如何
ナルカ

ト素ト同ジ種類ニテ、花ハ小ク愛ラシク、其咲ク
 時節モ、甲乙ナシ、カキツバタ漢名燕ニモ類多シ、
 石竹漢名トナデシコトハ同ジ種類ニテ、アフロヒ
 漢名ハ、紅、白、紫ノ三種アリ、花ノ色次第ニ變ルハ、
 アサガハ漢名紫ナリ、○ヒルガホ漢名エウガホ
 ハ一色ノミナレド、アサガハ漢名ハ、色様々ニ
 テ、種類モ亦多ク、且ツ培養ニ依テ、變化極リナク、
 クチナシ漢名ノ花ハ、白ク、ネムノ花ハ、薄紫ニテ、
 糸ノ如シ、○蓮ハ、白ト紅トニテ、秋海棠ハ、紅ナリ、
 サルスベリ漢名百ハ、紅ナルヌ多シトスレド、又

四季ニ咲
ク者ハ何
カ

白キモノアリ、淡紅ノモノアリ、花盛リ久キガ故
 ニ、百日紅ノ名アルナリ、菘モ亦紅、白ニテ、紫苑ハ、
 淡紫ナリ、木芙蓉ニハ、八重アリ、一重有テ、色ハ白
 淡紅、真紅ノ三様ナリ、エゾギクハ、紫紅、白ヲ常ト
 スレド、其外様々ノ色アリ、黄蜀葵ハ、黄色ニテ、鬱
 金ハ、白キモ妙ナリ、菊ハ、自然ノ種類多キガ上ニ、
 培養ニ依テハ、一株ニ、大花、數十ヲ繁ルコトアリ、
 水仙ツバキニモ、早咲キアリ、サバシクワニハ、真
 紅アリ、淡紅アリ、亦白モアリ、次ニハ、水仙、梅有テ、
 明年ノ花ト相續ク、加フルニ、長春花ノ如キハ、四

本草綱目

第一卷上

三十三

二季ニ咲ク者ハ何カ

季ニ咲キ、又春秋ニ七草アリ、二季ニ咲クモノモ少カラズ、ツバキ、牡丹、石竹、海棠、丁子等ノ如シ、

第十一

薬用植物ノ話

人ノ病アル時ハ、醫師之ヲ診察シ、病ニ應ジテ、薬ヲ與フ、内服ニハ、水薬、粉薬、丸薬ナドアリ、外用ニハ、膏薬、塗薬ナド様々ナレド、植物及ビ礦物ノ兩界ヨリ製スルモノ多シ、

接骨木、花ハ、野ニアルニハトコノ花ナリ、風ヲ引

タル時之ヲ浸劑ニシテ飲メバ、汗ヲ發シテ治スベシ、又菊ノ類ニモ、此効ヲ奏スル者アリ、庭園ニ

藥品ハ何ヨリ製スル者多キカ

汗ヲ發スル薬ハ何カ

痛ヲ和グル者ハ何カ



シケレ、諸醫師ハ下劑吐劑ヲ用テ、病ヲ療スルコトアリ、先ツ下劑ニハ、^{多ク}大黃ノ根、^{ダイワウ}タウゴマノ油、^{漢名}漢名

本草綱目

第一卷上

三十四

アルアフヒノ根、^{漢名}漢名蜀ゼニ、^{アフヒノ葉}アフヒノ葉、^{漢名}漢名錦葵及ビ大麥ノ煎汁ハ、痛ヲ和グ、此汁ヲ布ニ移シテ、蒸薬トスルコソ、宜

下痢ヲ催
ス者ハ何
カ

蓖麻子油ナレド、兒供ニハ、大概桃ノ花漢名白ノ浸劑ヲ用フ、大黃ヲ培養スルハ、藥用ノ爲メナリ、ドウゴマハ、庭園ニテ之ヲ見ル、莖ハ高ク、葉ハ大ニテ、形ハ手ヲ擴ゲタルガ如シ、花ハ紅ニテ大ナリ、油ハ、其種子ヨリ搾ル、偕從來我が邦ノ産ニシテ吐劑ニ用フベキモノハ、ギンマクワ漢名瓜蒂ニ過ギザレドモ、外國ヨリ渡タル品ニテ、近時培養スル者、素ヨリ多シ、但シスミレ漢名根ハ下痢ヲ催シ、吐ヲ促スノ兩効アリ、○汗ヲ發シ、下痢嘔吐ヲ催スノ植物ハ、一通リ上ニ述ベタルガ如ク

吐劑ハ何
カ
吐下ノ効
ヲ兼ル者
ハ何カ

芥子泥ハ
何ニテ製
スルカ又
如何ナル
効アリヤ

○右ノ外、平常善ク藥用植物ノ名ヲ知り、醫師ノ教ニ從テ、之ヲ應用スルハ、亦大切ノ務ナリ、先ヅ畑ニハ、芥菜アリ、花ハ黄色ニテ、並ノ菜花ト同ジ、又其種子ハ、芥子ニテ、誰モ知ル所ナリ、之ヲ細末ニシ、温鈍粉ナドニ雜ゼ、水ニテ煉タルモノハ、醫師ノ所謂ル、芥子泥ニテ、膏藥ノ如キ、一種ノ塗劑ナリ、之ヲ皮膚ニ貼レバ、其處ニ血ノ循環ヲ催シ、テ、一ノ刺激ヲ發ス、故ニ用途、随分多シ、レウマチ漢名痛風ト云フ病ナドニハ、奇効アリ、又兒供ノ病ニ、用フルコトハ、殊ニ多シ、○庭園ニ植エテ、花ヲ

本草綱目卷之二十一 芥子泥

ゲシノ液
ヨリ如何
ナルモノ
ヲ製スル
カ

賞シ、田園ニ培養シテ、其種子ヲ取り、以テ食用ニ
供スルモノアリケシ漢名ト云フ、其實ノ殼ヨリ、
液ヲ取り、之ヲ精煉シタルモノヲ、阿片ト云フ、津
輕ノ産ヲ良トス、故ニ津輕阿片ノ名アリ、元來良
藥ナレド、大毒藥ノ一ナレバ、政府ハ、法令ヲ設ケ
テ、賣買ヲ嚴重ニス、○牡丹ノ根ノ皮ハ、牡丹皮ト
稱シ、芍藥ノ根ハ、唯芍藥ト言テ、別ニ根ノ字ヲ付
ケズ、ザクノ皮ハ、石榴皮、蜜柑ノ皮ハ、陳皮ニテ、
橙實ノ皮ハ、橙皮ト云フ、皮ノ儘用フルノミナラ
ズ、亦其油ヲ用フルコトアリ、葛ノ根ヲ晒シテ、コ

牡丹其他
藥品ニ用
フル者ノ
名ヲ舉ゲ
ヨ

レヨリ取タル粉ハ、葛粉トテ、外ノ藥ニ雜ゼテ、用
フルコト多シ、梅ノ實ヨリ、烏梅ヲ製シ、クチナシ
ノ實ハ、山梔子ト名ツケ、松ノ脂ハ、チヤント稱ス、
バヂリ膏藥名ナドヲ製スルニハ、必要ノ品ナリ、又
煙草ノ浸液ハ、海中動物ノ刺毒ヲ消ス、トテ漁夫
ハ、之ヲ賞用スト云フ、偕茲ニ、尚速ブベキ一言ア
リ、ソハ如何ナルコト、グト言フニ、毒藥變ジテ、良
藥トナルト、言ヘル、諺ハ、人ノ善ク知ル所ナレド、
良藥變ジテ、毒藥トナルニハ、氣ヲ留メ、又人多シ、
凡ソ藥用ニハ、皆夫々ノ分量アリ、又大切ナル注

本草綱目卷上 三六

意有テ、若シ之ヲ粗略ニスレバ、大害ハ覲面ナリ、
 恐レテモ、尚恐ルベシ、抑モ病ヲ察シ、藥ヲ投ズル
 ニハ、夥シキ學問ト、多年ノ經驗トヲ要ス、經驗
 ハ、多數ノ病人ヲ取り扱テ、實地ノ効ヲ經ルコト
 ナリ、醫學校、或ハ病院ナドニテ、夫々ノ學科ヲ修
 ヲ、數多ノ經驗ヲ積タル人ニハ、官ヨリ醫學士ノ
 稱ヲ與ヘ、或ハ開業醫ノ免狀ヲ與フ、誠ニ以テ手
 重キコトナリ、然ル上ニ、良醫ニテモ、次第ニ依テ
 ハ、容易ニ藥法ヲ定メ、又コトアリ、況シテ素人ニテ、
 病ノ原ヲ知り、藥法ヲ定メ得ルノ理ハ、決シテア

藥ハ何人
 ニテモ用
 ヒ得ベキ
 カ
 病アル時
 ハ如何ス
 ベトヤ

ルコトナシ、左レバ、大聖孔子モ、吾ハ老圃ニ如カ
 ズト曰ヘリ、又我が國ノ諺ニモ、餅ハ餅屋ト言ヘ
 リ、病氣ノ鑒定并ニ藥法ノ取扱ハ、必ず醫師ニ任
 カスベシ、然ルニ病者ヲ見テハ、藥ヲ與ヘ、コレハ
 何々ノ効アリ、吾屢實驗セリ、那ハ何々ノ能アリ
 ナドハ、吾勝チニ喋々數ク演ベ立ルモノ多シ、素
 ヲリ好意ニ出ヅトハイヘド、前ニ述べタル理合
 ヲ考ヘバ、其危キコトハ、實ニ薄氷ヲ踏ムガ如シ、
 異々モ、手輕ナリトシ、重寶ナリトシテ、輕キ病ヲ
 重クシ、長キ命ヲ縮ムルコト勿レ、

醫學博士論
 第一卷
 三十七

第十二 有毒植物ノ話

前條ニ、藥用植物ヲ説クニ方テ、藥ノ分量用法ノ
大切ナルコトヲ、述ベタルガ、藥品ハ、何ニ限ラズ、
皆毒物ニテ、其藥トナリ、毒トナルハ、ヨク之ヲ用
フルト、其用法ヲ誤ルト、ニ由ルノミ、毒藥ノ次ニ、
劇藥アレド、此名ハ、毒ノ薄キコトヲ示スノミニ
テ、矢張毒藥ニハ、相違ナシ、但シ藥ノ中ニテ、分量
ナドノ心配少キモノアリ、夫麥ノ如キコレナリ、
スミレノ根、タウゴマノ油ナドニ至テハ、注意ヲ
要ス、況シテ阿片ナドニ至テハ、注意ニ注意ヲ加

何ヲカ有
毒植物ト
云フ

有毒植物
ハ如何ニ
取扱フベ
キヤ

シキハ
如何

フベシ、此等ハ、決シテ麤忽ナル人ニ托スベカラ
ズ、此類ヲ總稱シテ、有毒植物ト云フ、
有毒植物ハ、其根、幹、枝、葉、花、果、種子ノ別ナク、餘儀
ナキトキハ、外ハ、決シテ手ニ觸ルベカラズ、況シ
テ、口中ニ入ル、ナドハ、最モ慎ムベシ、コレガ爲
メニ、死タル例ハ、古今少カラズ、シキミ、漢名茶草
ノ畧語ナリ、實ヲ食テ、即日死タル話ハ、時々聞ク
所ナリ、儲又同シ食用植物ニテモ、珍奇ノ品ハ、危
シ、葷類コレナリ、之ヲ食テ、劇キ腹痛ヲ發シ、或ハ
為メニ死タルモノ、甚ダ多シ、筍モ亦マ、ウツウ、漢
名

漢名茶草
漢名

蘆筍ニモ
亦有毒ア
ルカ

江南ハチク、漢名マダケ。漢名ノ外ニハ、有毒ノモ
ノアリト云フ、淡竹マダケ。苦竹ノ外ニハ、有毒ノモ

川烏頭ハ
如何ナル
者カ

山中ニ自生スル草ニテ、春其根ヨリ芽ヲ生ジ、長
サ三四尺ニ至リ、莖ハ弱クシテ、直立セズ、葉ハ、岐
ヲナシテ互生シ、莖ノ兩側ニ、相對シテ生ゼズ、一
ヲ謂 秋ニ至レバ、每葉ノ傍ニ、花開ク、其色ハ、深碧
ニテ、二三花ヅ、一綴ヲナシ、其形ハ、伶人ノ烏冠
ニ似ルモノアリ、ヤマトリカブト。漢名草ト云フ、
毒深シ、別ニカブトサウ。漢名川ト云フ、草アリ、コ
レハ、毒稍淺シ、莖ハ強クシテ直立シ、葉ハ厚ク、花

烏頭ハ如
何ナル者
カ



サガホニ似レド、筒ハコレヨリ長ク、色ハ白シ、○
オメキクサ。漢名ハ、深山ニ生ズ、春芽ヲ生ジタル

ハ濃紫ニテ、形ハ、ヤマ
トリカブトニ異ラズ、
人ノ培養スルモノナ
リ、テウセニアサガホ。漢
曼陀羅花ハ、茄子ノ葉ニ似
テ、淺綠色ナリ、莖ハ軟
ニテ、秋、花開ク、形ハ、ア

本草綱目卷之八

曼陀羅花
蔓若ハ如
何

毒ヲ避ク
ルニハ如
何スベキ
ヤ

初メハ、紫黑色ナレド、長ズレバ、淡緑トナル、莖ノ
長サハ、一二丈アリ、葉ハ、ヤマゴバウ漢名ニ似テ、商陸
狭ク小シ、花ハ、筒状ニテ、實ヲ花後ニ結ブ、○此ニ
者ハ、毒草ナリ、誤テ之ヲ食ヘバ、發狂スト云フ、
又庭園ニ培養スルモノ、中ニモ、毒アルモノア
リ、食ヒ慣レザルモノハ、妄リニ食ハザルヲ好シ
トス、人ノ此世ニ居ルハ、元ト口腹ノ為メニアラ
ズ、若シコレガ為メニ、大切ノ體ヲ誤ル時ハ、愧ツ
ミキコトニアラズヤ、
小學理科讀本卷之一上終

明治二十一年六月十二日印 刷
同 年七月 日修正出版 定價金拾五錢
同 二十年五月六日版権免許

編輯者 廣島縣士族 佐澤太郎

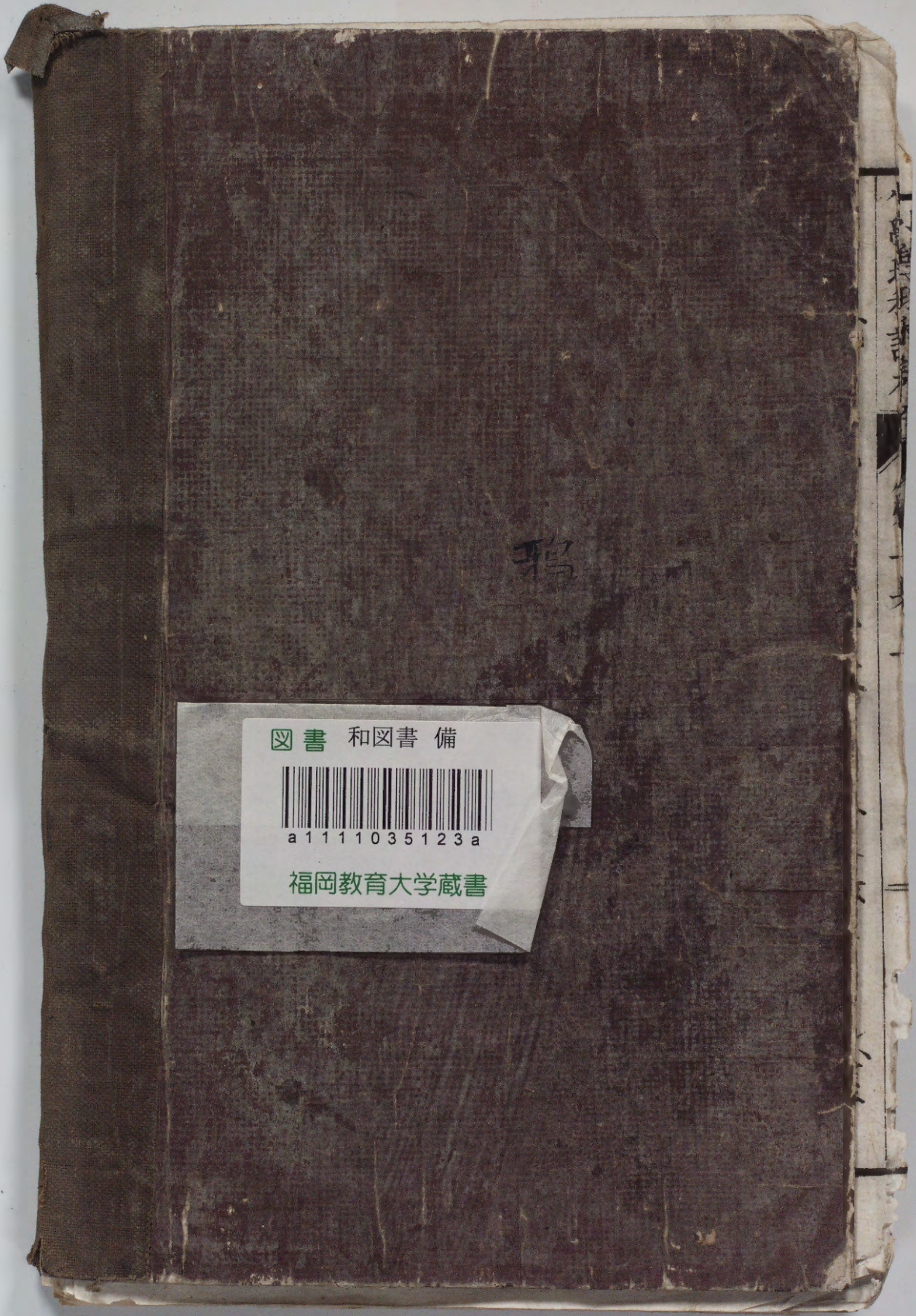
發行者 茨城縣下妻 關谷末松

印刷者 東京府平民 江川八左衛門

賣捌所 文榮堂

大賣捌所 星館 收





圖書和圖書備



a1111035123a

福岡教育大学蔵書

鴉

八景集